勿凝学問 121

# おっとこれは失敬、年金部会に連合以外に租税方式支持者がいらっしゃったんですね

2007 年 12 月 1 日
慶應義塾大学　商学部
教授　権丈善一

本屋さんに出かけた。入り口に平積みされている本は、やはり目に付く。文藝春秋編『日本の論点 2008　またルールが変わった』が目に入ってきたので、今年も年末だなぁと思いながら、手にする。仕事柄、医療と年金のページをめくる。

おっとぉ。
年金部会でご一緒させていただいている日本総研の西沢和彦氏が「保険料方式は不幸のもと――所得再分配機能のある消費税を財源に」と書かれているではないか。

先日 11 月 22 日に、勿凝学問 118 で次のように書いたので、これは申し訳なかったと反省。

| 勿凝学問 118　年金の国民的議論というのは有識者さんたちに制度を教えることなんだろう、この国では |
|---|
| ちなみに、昨日の年金部会の雰囲気を言っておくと、基礎年金の租税方式化については、連合代表の小島茂生活福祉局長を除いて、もっと地に足のついた年金改革論、特にパート労働への厚生年金適用拡大、第 3 号被保険者問題を論じましょうというものであった。 |

なんだ、西沢さんは、連合代表の小島局長と同じ考えなのか。あの時の年金部会では、経済財政諮問会議が基礎年金租税方式を論じた「持続可能な基礎年金制度の構築に向けて」をみんなでけちょんけちょんにしていたんだけど、その時に黙っていないで、そうおっしゃってくれればよかったのにぃ。

そう言えば、10 月 14 日の社会政策学会で、わたくしと同じくシンポジストとして参加されていた京都大学の新川敏光先生が、西沢さんの『年金大改革』から未納未加入問題が被用者年金の保険料を引き上げている問題があるという箇所を引用されていたから、「それは間違いですよ」と言ってどんな間違いなのかを説明した。そしてシンポジウムの壇上で、「もう、こんなことおっしゃらないですよね（笑）」と笑顔で言ったら、「はい」と明るくおっしゃってくださったんだった、アハハ。

西沢さんが、文藝春秋編『日本の論点』で年金を論じられるようになったのは 2004 年末に出た『日本の論点 2005』、すなわち 2004 年の年金騒動の年の 11 月末で、その年の副題は「主役が交代した」だったと記憶している――なるほど。